

港町直江津における都市形態の特徴および歴史的建造物の残存状況

正会員 同
○北元裕子*
岡崎篤行**

港町 直江津 都市形態
歴史的建造物 町屋

1. 研究の背景と目的

上越市直江津は古代に国府が置かれ、越後の中心であり、中世には関川から内陸部へと広がる潟の周辺に湊があった¹⁾とされている[図1]。港町の都市形態についての全国的な研究²⁾は行われているものの、直江津を取り上げた研究は行われていない。先行研究^{3) 4)}においても湊、主要な道路などの位置や成立年代の検討は行われているが、都市形態については把握されていない。また、直江津は上越地方で高田に次ぐ市街地であり、代表的な建造物の調査⁵⁾しか行われてきたが、歴史的建造物⁽¹⁾の網羅的調査は行われていない。そこで、本研究では直江津の都市形態の特徴、歴史的建造物の残存状況・外観特性を明らかにすることを目的とする。

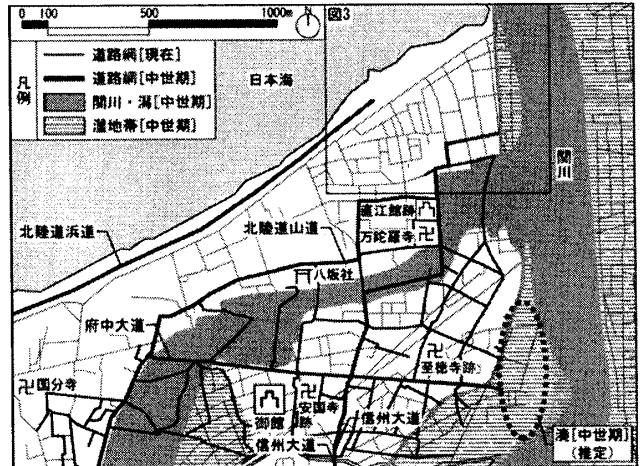


図1：中世期越後府中の都市形態(参考文献1)3)4)に基づき作成)

2. 対象地概要と研究方法

中世の湊を中心にできた「直江の津」に対して新しくつくられた町を「今町」と呼んだ。1614年に今町は高田藩の外港となり、日本海側の有力な港町として発展した。

研究方法は、文献や既往研究³⁾、絵図⁶⁾から街区割など都市形態を継承していると思われる範囲を調査範囲とし、絵図⁶⁾や古地図⁷⁾に記載される街路や水路網を現在の地図に位置を比定する。また、2008年9月～10月にかけて歴史的建造物の抽出、外観に対する現地調査を行った。

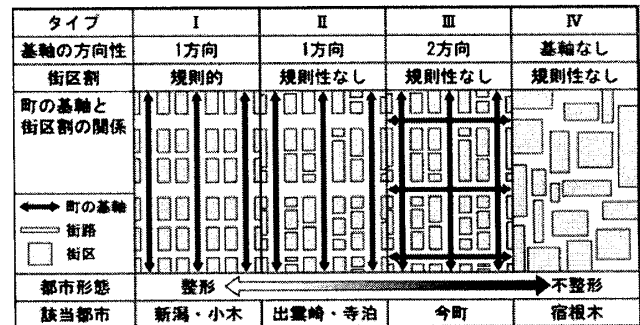


図2：新潟県内港町の分類

3. 新潟県内港町における位置付け

県内の港町を対象に、町の基軸となる通りと通り・路地などの街路によって囲まれた街区の関係性により4タイプを抽出した[図2]。タイプIは新潟・小木が当てはまり、基軸が1方向、街区割が規則的で、形態は整形である。タイプIVは宿根木が当てはまり、基軸の方向性は見出せず、街区割に規則性はなく、タイプIとは対照的に不整形な形態を示す。タイプIIIは基軸が2方向あり、街区割に規則性は見出せない。今町はタイプIIIに属し、敷地割の関係において優勢である街道沿いの町筋とそれらに直行する町筋が存在し不整形に近い都市形態を示す。

4. 今町の形成過程から見る都市形態

絵図⁶⁾より今町の享保年間の町域と都市形態の核をなす町筋を抽出した[図3]。今町の形成過程を検討すると、

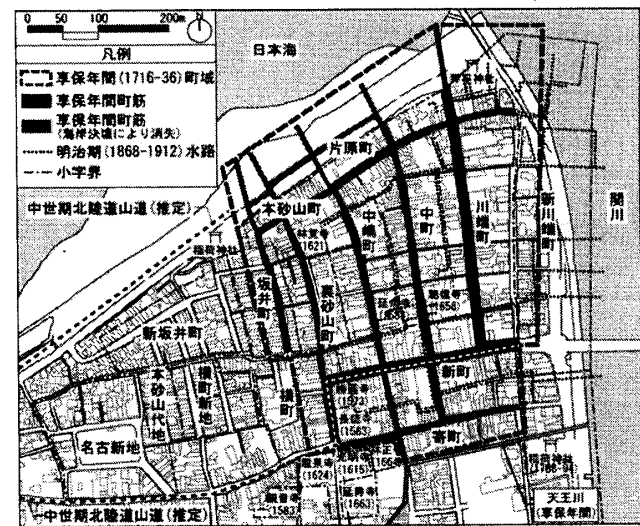


図3：今町の町域における町筋と水路網

Characteristic of Urban Formation and Remaining Condition of Historic Buildings in NAOETSU Port Town

KITAMOTO Yuko, OKAZAKI Atsuyuki

中世の街道筋である新町は早い段階で成立したと考えられる。また、絵図⁸⁾より町筋と敷地割の関係において新町と同様に優勢である本砂山町、片原町は今町成立初期に形成されたと推測される。これらは北陸道浜道を基盤として成立した可能性がある。また、中世には天王川以南は湿地帯であり³⁾町はそれ以上拡大することはできなかった。そのため上記の町々の間を埋めるように新たな町が形成されていったと考えられるが、確証はない。

また、地籍図⁷⁾に描かれる水路は、多くが町境界と対応している[図 3]。水路網の形状よりそれらが計画的に整備されたのではなく町の拡大に伴って整備されていった可能性が高い。文献や既往研究では、今町に町建てを行った者がいたという記述はない。なお、中世の市街地である越後府中との関係性は不明であった。

5. 歴史的建造物の残存状況と細部意匠

調査範囲において確認できた建造物総数 2245 棟のうち 342 棟を歴史的建造物であると推定した。全体の歴建率⁽²⁾は 15%と高くはないが、歴史的建造物の棟数は上越地方で高田に次ぐ糸川川と同程度である[図 4]。町丁別の歴建率も突出して高い地区はなく、町並みとしての整備は容易ではない。また、歴史的建造物を用途、様式、配置により分類すると、町屋系配置が多いことがわかる[図 5]。町屋系配置の建造物を外観形態により分類し、主要な 6 タイプを抽出した。最も多く見られたのは、外形がI型、棟向は横屋で下屋を持つタイプ(③)である[図 6]。さらに、1894 年に建てられた直江津銀行を移転した高次回漕店や明治期の遊郭移転の際に建てられた元貸座敷など重要な建造物が多く点在している[図 4・7]。

細部意匠では、下越地方では見られない登梁が高田地区同様に見られた。特徴的な細部意匠として軒下に部材が立派で部材同士の間隔の狭い垂木が見られた[図 8]。

6. 結論

- (1) 今町は、新潟や小木といった近世に成立した港町の整形な都市形態とは異なり、不整形に近い形態をしている。
- (2) 今町は、中世北陸道を基盤として形成され、地形的制約を受けながら各町が街道筋の町々の間を埋めるように徐々に拡大していった可能性がある。
- (3) 全体の歴建率は高くないものの、歴史的建造物の棟数は上越地方で高田に次ぐ糸川川と同程度である。また、登録文化財として保存していくべき重要な建造物が点在しており、点的整備を進めていく必要がある。
- (4) 細部意匠は下越地方では見られない登梁が見られた。特徴的な細部意匠として軒下に意匠的な垂木が見られた。

【補注】

- (1) 本研究では第 2 次世界大戦(1945 年)以前に建てられた建造物と定義する。
- (2) 調査範囲の全建造物に対する歴史的建造物の割合とする。
- 【引用・参考文献】
- 1) 矢田俊文：直江津の橋と港湾都市、上越市史専門委員会編、「上越市史研究 第 6 号」、上越市、2001
- 2) 宮本雅明：都市空間の近世史研究、中央公論美術出版、2005
- 3) 金子拓男：上杉氏による越後府中の経営と居城春日山城の成立、日本考古学会編、「守護所から戦国城下へ〜地方政治都市論の試み〜」、名著出版、1993
- 4) 新潟県教育庁文化行政課編：新潟県遺跡地区、新潟県教育委員会、1980
- 5) 上越市創造行政研究所：歴史的建造物の保存と活用に関する調査報告書、上越市、2002
- 6) 享保年中(1716-1736)：享保年中 今町分間絵図、越後府中文化所収
- 7) 年代不明：「直江津町大字直江津更正地図」、上越市役所所蔵
- 8) 慶応 2 年(1866)：「水板引合絵図」、高田図書館所蔵

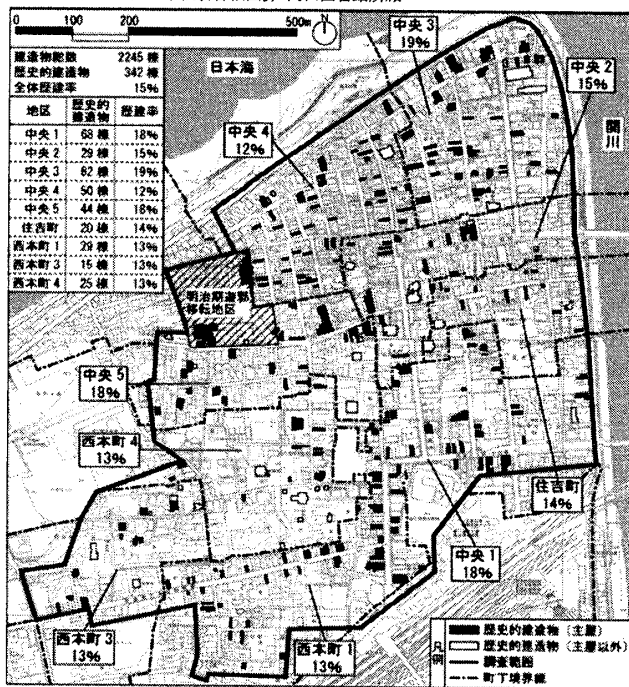


図 4：歴史的建造物の残存状況

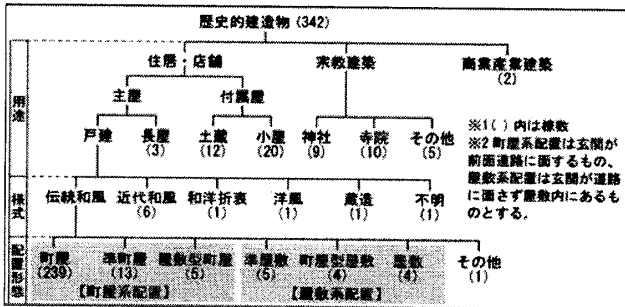


図 5：歴史的建造物の用途/様式/配置による分類

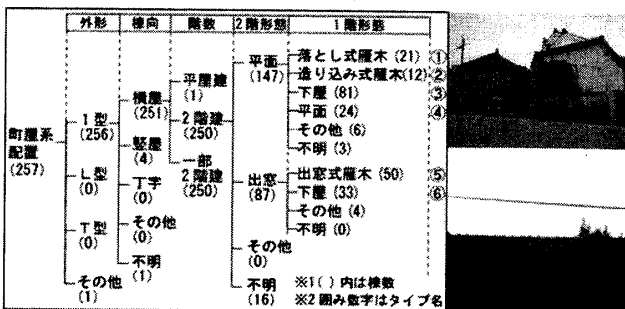


図 6：「町屋系配置」の外観形態による分類

図 8：意匠的な垂木

*新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程
**新潟大学工学部建設学科 准教授・博士 (工学)

*Graduate Student, Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.
**Assoc.Prof., Dept. of Civil Eng. and Arch., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr.